

2023年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

HRS鈴鹿Motoクラス アドバンスコース生5名が鈴鹿サンデーロードレース第3戦に参戦。
久しぶりのレースながら、トレーニングの成果を遺憾なく発揮!

9月9日(土) 公式予選 11:20~11:40 ◎天候・路面:Fine/Dry

#21 岡田陽大 3位/2'23.097	#11 遠藤翔類 13位/2'24.718
#67 中谷健心 5位/2'23.672	#4 Kiattisak Singhapong 16位/2'25.938
#8 竹本倫太郎 7位/2'23.951	#18 Kitsada Tanachot 19位/2'26.707
#12 豊田哲慎 9位/2'24.037	

厳しい残暑の中での開催となった鈴鹿サンデーロードレース選手権シリーズ第3戦。J-GP3クラスにレギュラー参戦する5名のHRS鈴鹿Motoクラス・アドバンスコース生は、岡山国際サーキットでの地方戦遠征をはじめ、猛暑が続いた今夏のインターバルも休むことなくトレーニングを続け、今回の第3戦に臨む。また今回はタイホンダから#4Kiattisak Singhapong選手、#18Kitsada Tanachot選手が交換留学生として来日し、HRS勢とともに初めてとなる鈴鹿サーキットでのレースに参戦した。

20分間の予選セッションが始まると、#12豊田哲慎が真っ先にコースインし、その後に#8竹本倫太郎、#11遠藤翔類、#67中谷健心、タイホンダの2名のライダーが続く。#21岡田陽大は単独でのタイムアップを目指し、あえて集団から遅れてコースインすると、7周目に2'23.097を記録して3番手グリッドを獲得。中谷は5番手につけ、竹本が7番手で続いた。豊田が9番手、そして遠藤は13番手という結果となった。岡田はシーズンベストとなるタイムを記録し、中谷や豊田らも自己ベストタイムを更新するなど、各ライダーは夏のトレーニングの成果をさっそく予選で見せつけた。タイホンダのKiattisakは2'25.938(16番手)、Kitsadaは2'26.707(19番手)で、ともに初の鈴鹿ながらも上々のタイムを記録している。



9月10日(日) 決勝レース(フルコース10周) ◎天候・路面: Cloudy/Wet/Dry

- #67 中谷健心 総合2位/ナショナル1位/NSFチャレンジ1位
- #12 豊田哲慎 総合4位/ナショナル3位/NSFチャレンジ3位
- #8 竹本倫太郎 総合5位/ナショナル4位/NSFチャレンジ4位
- #11 遠藤翔類 総合8位/ナショナル7位/NSFチャレンジ7位
- #21 岡田陽大 総合13位/ナショナル8位/NSFチャレンジ8位
- #4 Kiattisak Singhapong 総合14位/インター6位/NSFチャレンジ9位
- #18 Kitsada Tanachot D.N.S.

予選3番手、フロントローの岡田はスタートでやや遅れてしまうが、その後方の中谷、豊田はスタートでポジションをアップ。レース序盤、岡田、豊田、中谷は3番手グループで激しいポジション争いを展開するが、やがて岡田がグループの先頭に立つと、トップを争う高橋、松田両選手を猛追する。岡田は4周目に2分22秒台のタイムを叩き出して前を走る2台を追走し、その後方では中谷も自己ベストの2分22秒台を記録して前を走る豊田に肉薄する。5周目には岡田がさらにタイムを削り、トップ集団は三つ巴の展開に。再三トップをうかがう岡田だったが、高橋、松田両選手も岡田の先行を許さない。4番手グループでは豊田と中谷がグループの先頭を争い、竹本や遠藤もグループの後方でライバルらとポジションを争っていた。

3番手で最終ラップに突入した岡田はS字で首位に立つが、バックストレートでは松田選手が先行する激しい攻防。日立Astemoシケインの進入で岡田は松田選手のインに飛び込んでトップを奪還するものの、シケイン2個目でその岡田に松田選手が接触し、2台とも転倒してしまった。これにより3番手の位置につけていた高橋選手が総合のトップでゴールした。セカンドグループでは、やはり日立Astemoシケインで中谷が豊田をパスし、総合2位、ナショナルクラス1位でチェッカーを受けた。豊田は総合4位、クラスでは3位という結果となり、総合5位に竹本、遠藤が総合8位、Kiattisakは総合14位でレースを終えている。なおKitsadaはウォームアップ時にマシントラブルが発生し、残念ながら決勝を走ることはできなかった。



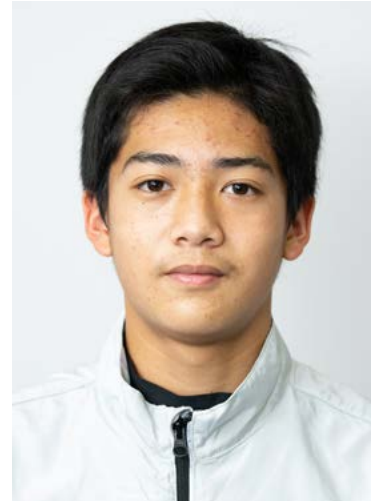
総合2位(ナショナル1位/NSFチャレンジ1位) 中谷健心(中央) 総合4位(ナショナル3位/NSFチャレンジ3位) 豊田哲慎(右)



2023年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

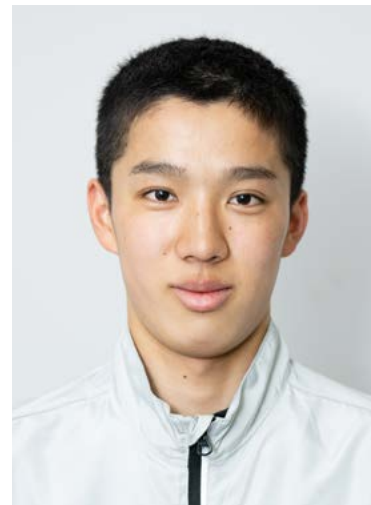
**ナショナルJ-GP3クラス: 予選5位 決勝総合2位(ナショナル1位/NSF
チャレンジ1位)**
中谷 健心(なかたにけんしん) 15歳

『練習走行から決勝までいい流れのレースができたと思います。決勝ではスタートで数台を抜くことができましたが、レース序盤は後続ライダーと絡んでしまって、その間にトップグループに引き離されてしまいました。レースの中盤にはセカンドグループ集団の前に出られて、しばらく抜き返されることもありませんでしたが、レースの終盤になると後続のライダーに前に出られてしまいました。レース序盤のペースがあまり良くなかったので、次のレースでは1周目や2周目でベストタイムで走れるようになりたいです。普段の練習でも誰かと一緒ではなく、なるべく単独で走ることで、より自分自身の走り向きあいたいと思っています。今回はベストタイムを出せましたし、全力を出し切れたと思います。アベレージタイムも上がりましたが、ライバルには逃げられてしまいました。走り自体は良かったとは思っていますが、このレベルで満足するのではなく、もっと上を目指さないとはいけません』



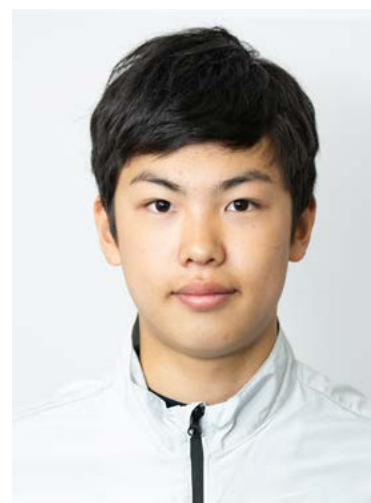
**ナショナルJ-GP3クラス: 予選9位 決勝総合4位(ナショナル3位/NSF
チャレンジ3位)**
豊田 哲慎(とよだてっしん) 16歳

『予選はなるべく多い周回数を走ることを意識しました。タイム自体は決して悪くはありませんでしたが、もっといいタイムを出さないといけませんね。1週のラップをまとめ切る実力がまだ足りていませんでした。決勝では2周目の逆バンクで4番手にまでポジションを上げられて、そこから数周は岡田選手に食らいつきましたが、徐々に離されて、トップ集団からはかなり離されてしまいました。ラストラップでは日立Astemoシケインで後続の2台にかわされてしまいました。ブレーキングが自分にとっての課題のひとつだと実感しました。次のレースでは予選でフロントローを狙い、トップ集団に離されない走りをしていきたいです。今回はトップに完全に置いて行かれたので、次はとにかく離されないように走りたくし、後続を引き離せるスピードも身に着きたいです』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選7位 決勝総合5位(ナショナル4位/NSF
チャレンジ4位)**
竹本 倫太郎(たけもとりんたろう) 15歳

『予選では他車の後方につけることでタイムを1秒くらい更新することができました。決勝はオープニングラップでかなりポジションを落としてしまい、集団に飲まれてしまってなかなか前に出られませんでした。スタートでもっと前のほうに出られれば、上位集団に追いつけたかもしれません。これまでの練習でスタートがかなり上達してきたと思っていましたが、まだまだ練習しないといけません。また今回はブレーキングを強く意識しましたが、以前と比べてかなり良くなったと思います。苦手だった130Rでのブレーキングも、ようやくブレーキングポイントをつかめたと思います。とはいえずスタートと1コーナーの処理は自分にとって大きな課題ですので、次のレースまでにこれらのポイントを意識して練習しようと思います』

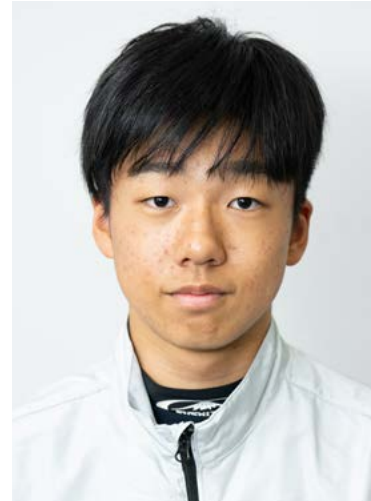


2023年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

**ナショナルJ-GP3クラス: 予選13位 決勝総合8位(ナショナル7位/NSF
チャレンジ7位)**

遠藤翔類(えんどうかける) 14歳

『予選でベストタイムを更新できましたが、いい条件だったのにもかかわらず更新幅はほんの少しで、もっといいタイムを出したかったです。ベストタイムは人のスリップに入ったときのタイムで、自分が集団の前を走った際のタイムはあまり伸びていないので、単独での速度をもっと上げないといけません。決勝のスタートはあまりうまくいかず、1コーナーの進入でも前に出られませんでした。スタートでもっと前に行き、前の集団についていくことが今後の大きな課題です。これは決勝だけでなく、予選から意識しないといけません。今回は2分23秒台中盤のタイムを目標としていましたが、結局24秒0しか出ませんでした。順位自体は上がりましたが、トップとのタイム差はより開いてしまったので、その点はとても悔しいです。自分のベストの走りをしっかりと記憶し、そのスピードを再現できるように練習を重ねたいと思います』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選3位 決勝総合13位(ナショナル8位/NSH
チャレンジ8位)**

岡田陽大(おかだひなた) 16歳

『去年のサンデー最終戦以降、ずっとタイムが伸び悩んでいました。練習でも23秒台に入れるのが精一杯な状況でしたが、先週の練習から単独でも23秒台に入れられるようになりました。単独で走ることを意識していたら自分のいいところや悪いところがよくわかるようになりました。決勝ではスタートで少し遅れてしまい、なかなか前に出られませんでした。とにかく前に出ようと意識しましたが、幸い上位2台は23秒台で、自分のペースのほうが良かったので差を縮められました。前に出て引き離れたかったのですが、なかなか首位に立てずにペースも上がりませんでした。今回は追い上げの最中に今シーズンのベストタイムを出すことができましたし、今後改善するべき点もいろいろ確認ができました。今回のレースで課題となった点についてしっかりと対策をして最終戦のNGK杯に臨みたいと思います』



インターJ-GP3クラス: 予選16位 決勝総合14位(インター6位/NSFチャレンジャー9位)

Kiattisak Singhapong 18歳

『今回のレースは練習する時間が少なかったので、しっかりと準備をする必要がありました。HRSの講師から送られたビデオを見ている研究して今回のレースに臨みました。鈴鹿サーキットを走るのは初めてでしたが、難しいコースでした。特に2コーナーからS字にかけてのセクションと日立Astemoシケインが難しかったです。今回のレースでは、短い時間でいかにコースに順応していくのかということを勉強することができました。HRS鈴鹿の受講生たちはこちらの相談に乗ってくれて、アドバイスもたくさんいただきました。皆やさしくて、雰囲気もとても良かったです』



インターJ-GP3クラス: 予選19位 決勝DNS

Kitsada Tanachot 15歳

『鈴鹿サーキットは自分にとっては初めてのサーキットで、勉強になることが多かったです。上りや連続コーナーといったレイアウトは(地元の)ブリラムにはなく、そういったレイアウトを経験できたことは良かったですね。難しいポイントは日立Astemoシケインですね。気に入ったポイントはS字コーナーで、とにかく楽しかったです。今回は普段とは違うライダーたちと一緒に走れて、彼らの乗り方やスタイルなど、とても勉強になりました。決勝はウォームアップ中に急にエンジンが止まってしまい、レースを走ることができなかったのが残念でした』



Chakrit Rungsuwanメカニックコーチ(右)

『プロフェッショナルライダーを育成するHRS鈴鹿の取り組みと、子供たちへの教え方には感動しました。準備運動やストレッチといった、レースの前にやるべきことなど、大いに勉強になりました。HRSの生徒たちは自分のマシンを自身でチェックしていて、規律をしっかりと守る姿勢にも感心しましたね。HRSで実施していることを、タイでも取り入れられればと思っています』

Sittisak On-Chaweangライダーコーチ(左)

『今回2名のライダーを迎え入れてくれたHRSには感謝です。HRSは、それぞれのライダーに課題と的確なアドバイスを与え、リアルタイムでそのアドバイスの効果を確認していて、ライダーも改善するべきポイントがわかりやすく、その効果も実感しやすかったと思います。タイの2名のライダーと日本人ライダーのデータを比較できたのも良かったですね』



2023年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

岡田忠之 Principal

『今回のレースの直前に実施した交通教育センターでのトレーニングの際、それぞれの生徒にカウンセリングを実施し、速いところや遅いところなどを伝えましたが、ウィークの走り始めでは我々が指摘したポイントを皆改善していました。決勝では多くのライダーが自己ベストを更新出来たのもよかったですね。転倒やマシントラブルもありましたが、ラップタイムを見る限り、それぞれしっかりと成長が出来たのではないかと思います。最終戦に向けて練習する機会は少ないですが、それぞれが今回記録したタイムにいかにかに近いタイムを記録できるのか、そのタイムをどのように再現するのかということについて、彼らがどのように認識しているのかということもチェックしたいと思っています。次は最終戦となりますが、この1年の成長をしっかりと見せてほしいですね』

